

一般社団法人えんがお

2020年度事業計画書

期間：2020年4月1日～2021年3月31日

I.2020年度の組織運営計画について

1.ビジョンとミッションの確認

ビジョン ー目指す社会像ー

誰もが人とのつながりを感じられる社会

ミッション ー社会的使命ー

- ・高齢者の孤立化の予防と解消ができる地域の仕組みをつくり、実践していく
- ・若者の存在を受け入れ、共に成長できる場をつくる

2.基本方針

ミッションの達成を図るため、以下の事項を2020年度の基本方針とする

①「人とのつながりが希薄な高齢者」の掘り起こしと解消

4期目に入るにあたり、いまだ関わっていない「人とのつながりが希薄な高齢者」が市内に多くいると推測している。こういった高齢者を掘り起こし、その人の生活の中に選択肢を増やしていくことが当法人の目指す姿であり、法人の真の価値につながる。今期は、ポスティングやマップ作成などを行い、新規で出会う高齢者の数を増やして行きながら自分たちの存在価値を足元から見直す一年としていく。

②地域住民との接点の増加とさらなる信頼関係の構築

①と合わせて、事務所の付近にも、未だ関わっていない高齢者層がいる。その中でも、独居高齢者や高齢者のみの世帯は、まだ地域でのつながりがあったとしても、今後希薄になり得る「まだ元気だが一人で暮らしている」人たちであり、孤立予備軍である。サロンやイベントのターゲットにはなり得るが、「面識がないため関わっていない」可能性が高い。イベントの周知など直接チラシを配るなどして事務所付近の住民への接点を多くし、法人スタッフの人間性を知ってもらうことで、活動への理解を図るだけでなく、必要時に適切なサービスを提供できるような関係性の構築を図っていく。

③応援者の拡大を目指した、日常的情報・景色の発信

2020年度は、さらに多くの人を巻き込んだ地域づくりを進めていく。事業の受益者はもちろんであるが、応援者もより多く集める一年を目指す。そのために、スタッフ全員でそれぞれの目線から感じたことや作りたい景色などを各々が発信し、共感を広げていく。結果、これまで以上に広範囲の方々から多様な応援者が集まる組織を目指す。

3.行動指針

- ・目の前の人を笑顔にする
- ・求められていることを最大限に楽しく実行する

スタッフ・サポーターに関しては、この二点を通過していれば個々の判断で主体的に行動してもらう。

II.2020年度事業計画（2020年4月～2021年3月）

1.事業計画

事業の種類（定款）	項目	事業名	事業内容・名称	備考 （時期・頻度など）	昨年度実績	受益者収益及び範囲の目標値 （実人数）
生活支援事業	継続	便利屋サービス （まごのてサービス含む）	主に制度対象外の生活支援	通年	440件 （35人）	500件 （50人）
世代間交流事業	継続	世代間交流イベント	多世代交流イベントの実施	16回/年	438人	560人
	継続	みんなの家	1階：サロン活動	通年 水曜日休み	3243人	4000人
	継続		2階：学生向け勉強スペース	通年	1998人	2500人
活動促進	継続	講演会	介護予防意識 地域作り促進	依頼時	37件 （2130人）	50件 （3000人）
		生活支援講習	生活支援をする際の注意点などを講習	随時	3人	5人
ネットワーク・コミュニティ形成事業	継続	えんがおベンチプロジェクト	市内ベンチの有効活用及び、 新規ベンチ・ステッカーの設置	通年	6脚 20枚	15脚 50枚
	継続	会員交流会 （伝えNight）	地域活動についての勉強会・ 会員交流会	2ヶ月に1回	65人	120人
	継続	ワンコイン体操教室	月に一回の体操教室	通年	291人	
	継続	PC・スマホ教室	高齢者向け教室（個別教室型 に変更）	3回/月	5回 51人	30人
	継続	えんがおハウス	遠方から活動体験に来る人の 宿泊所及び社員寮	通年	101人	150人
	新規	えんがお荘	若者・学生向けソーシャルシ ェアハウス	通年		入居者数5人
情報発信・出版事業	継続	情報発信	WEBサイト、 SNS（facebook,twitter,Inst agram）	通年	1585フォロ ー	2500フォロー ー
	継続		えがお通信	隔月	年6回	年4回

2.新規事業説明

1) 空き家・空き店舗活用3軒目 ソーシャルシェアハウス「えんがお荘」 担当：小林

概要：地域の方から寄付の申し出があった二階建ての一軒家（大田原市山の手1-8-13）において、若者・学生が地域活動などに挑戦するためのネットワークとしてシェアハウスを運営。

家賃を学生15,000円/月、社会人20,000円/月とし、水光熱費は居住者折半とする。6畳～12畳の居室が全6部屋あり、現在5名（学生2名・社会人3名、内男性3名・女性2名）が入居予定で、全員えんがおの活動会員として活動してきた者。土地は近隣のお寺の土地であり、建物のみ寄付。3月6日に譲渡手続き完了。安価での居住場所を提示しつつ、同じ価値観のメンバーを集めることで、各々の成長・挑戦が日常の中で加速していく景色を目指す。

収支：

1) 収入：家賃840,000円、光熱水費（入居者負担分）300,000円 合計 1,140,000円
2) 支出：地代276,000円、光熱水費300,000円、雑費300,000円、 合計 876,000円

3.運営体制

代表理事：1名

理事：7名 監事：1名

職員：常勤1名、非常勤2名、パート2名

4.その他 4期目の挑戦構想

①空き家・空き店舗活用4軒目（案）シェアオフィス・シェア店舗としての活用

概要：コミュニティハウスみんなの家の道路向かいにある2階建て、元日本料理店の空き店舗について、3月以降は空き店舗になるとの確定情報あり。大家さんとの家賃交渉によっては、当法人で契約し、シェアオフィス・シェア店舗として活用していくことでの収益化と事業可能性の拡大を図る。

また、一階にて地域の「まだ元気だが一人で暮らしている」高齢者を対象に週1回程度、定期営業での地域食堂・地域居酒屋のような活用を構想。地域の居場所としての選択肢の増加、孤立の予防を進めながら、現在の課題である「事業規模の限界」を広げるための動きをしていく。

収支：

1) 収入：家賃 360,000円、地域食堂売り上げ 500,000円、補助金 100,000円
2) 支出：家賃 360,000円、水光熱費 240,000円、仕入・諸経費 300,000円

②日中一時支援

日中一時支援とは、大田原市日中一時支援要綱によれば、【日中、障害福祉サービス事業所や障害者支援施設等において、障害者又は障害児に活動の場を提供し、見守り、社会に適応するための日常的訓練等の支援を行うものとする。】とある。市内には、軽度の障害を抱えた人の受け皿が不足しているとの情報があり、不登校などの状況で日中の時間を持て余してしまっている人の受け皿として当法人の高齢者サロンを活用することで、持続可能な形で地域共生社会の実現を目指していく。

収支：

1) 収入：障害の区分に応じ、4時間以内の預かりで1,230円～2,230円（利用者は1割負担）の収入となる。
2) 支出：現在の高齢者サロンの枠組みの中で実施

